

ようこそ！新城市の長篠・設楽原古戦場へ もっとふるさとが好きになる！古戦場散歩

ながしの したらがはら

【長篠・設楽原の戦いの史跡巡りガイド】

この冊子(DVD)をご覧になれば・・・
長篠城の籠城戦と、それに続く設楽原の戦い、
武田軍と織田・徳川連合軍が雌雄を賭けた
決戦の全てが解ります。

パワーポイント・ノートで視聴
PDFでも見れます

制作【長篠・設楽原の戦い】設楽原ボランティアガイドの会

【長篠・設楽原の戦いの史跡巡りガイド】 令和3年希望の春号

- ・奥三河にある長篠城は、信濃と三河、遠江から三河を結ぶ交通路にあり、甲斐から西上の地政学上の要衝の地にあった。武田勝頼は、ここを勢力下に置いておく事を必要とし、また、父信玄が領下とした長篠城を奪還しなければならないと思い、天正三年(1575)4月兵を起こした。逆に徳川家康にとっては目の上のコブであり、戦略的要衝の地であった。
- ・新城市の、長篠古戦場及び設楽原古戦場に点在する数多くの塚や碑は、戦国人の必死に生きようとした証であり、その慰霊は地元で生きる人の務めだと思います。新城市の古戦場の遺産は戦国の歴史の財産です。
【長篠・設楽原の戦い】の古戦場の、主な場所の、ガイドポイントを解説しました。長篠・設楽原古戦場に興味がある方の、参考になれば幸いです。

設楽原ボランティアガイドの会
事務局 新城市設楽原歴史資料館内
電話／FAX 0536-22-0673



信玄塚のお地藏様

【長篠・設楽原の戦いの史跡巡り大目次】

- 第1章 【長篠・設楽原の戦い】二つの戦い
先・長篠の籠城戦：長篠城の攻防戦
後・設楽原の決戦：連吾川の対決
- 第2章 長篠の古戦場散策：長篠城址史跡保存館
- 第3章 設楽原古戦場散策：設楽原歴史資料館
- 第4章 戦いの跡
- 第5章 設楽原に倒れた戦国の武人たち
- 第6章 戦いに因んで(ガイドプラス雑学)
- 第7章 ようこそ新城市へ

・その角を曲がると何かがある さあ歩こう歴史の舞台を！

【長篠・設楽原の戦いの史跡巡りのモデルコース順】

見どころ・聞きどころ

*長篠・設楽原の古戦場 ここは戦国の歴史の分岐点

- ① 道の駅もつくる新城・・起点
- ② 長篠城址周辺を散策・・馬場塚・蟻封じ塚
- ③ 長篠城址史跡保存館内を見学・その①～⑥
- ④ 大通寺・医王寺・新昌寺・松栄寺
- ⑤ 長篠城の攻防戦・三枝塚・鳶ヶ巣砦・中山砦
- ⑥ 設楽原歴史資料館・その①～⑧
- ⑦ 戦地本陣地・勝頼・信長・家康他
- ⑧ 戦いの目撃者・小屋久保・万人ヶ入り
- ⑨ 設楽原楽原に倒れた戦国の武人たち・山縣塚～笠井塚
- ⑩ 決戦の設楽原・丸山砦・馬防柵・首洗池・信玄塚
- ⑪ おまけ・ガイドプラス 新城市へようこそ



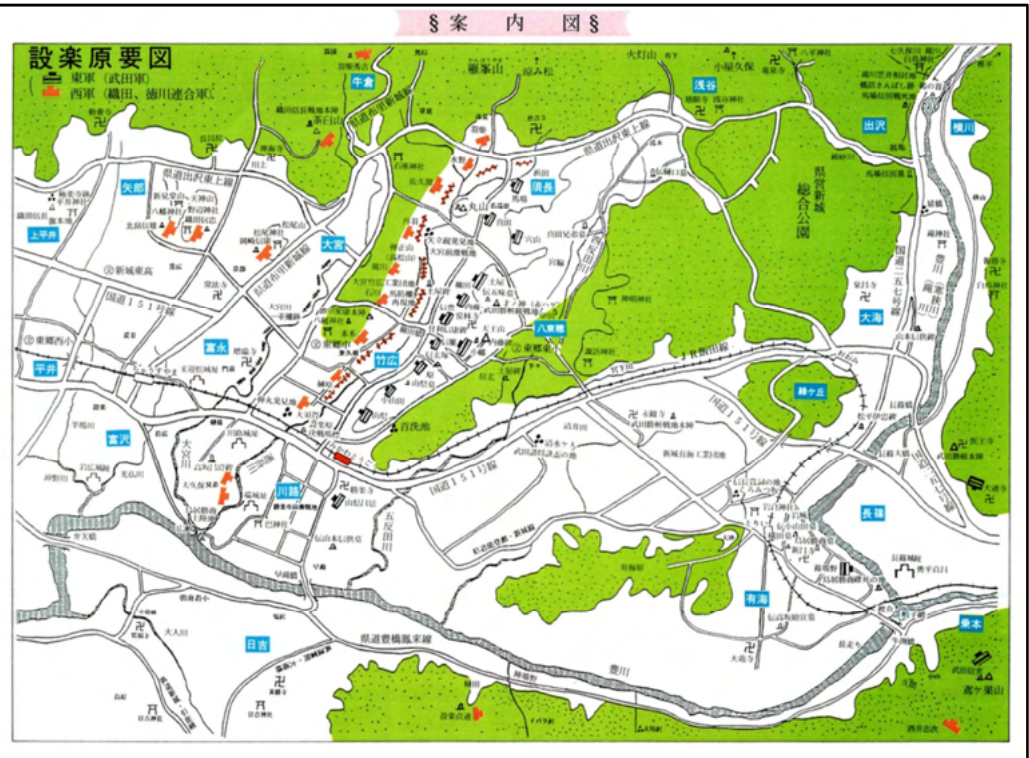
・のんすけは、新城軽トラ市の
マスコットキャラクターです。

第1章 長篠・設楽原 の戦い

位置図

古戦場地図

長篠城から
決戦場の設楽原へ



【古戦場地図のガイドポイント】



・さあ歩こう 歴史の舞台を！

・【籠城戦】の長篠の戦いの古戦場と、4^{km}程離れた、決戦場の設楽原古戦場の地図です。織田・徳川軍と武田軍が布陣した決戦場の設楽原の狭さが解ります。設楽原の両隣の、平井地区と、有海地区には、武田騎馬隊の活躍する広い舞台が整っているように見えます。この場所の選択は、織田・徳川連合軍の、武田騎馬隊の【機動力】を封じる作戦とも云われています。

・赤色が織田信長・徳川家康連合軍の配置です。

・黒色が武田勝頼の軍の配置です。

・緑色が山と丘陵です。

・設楽原の、連吾川を挟んで、両軍が対峙しています。

決戦が起きた、【天正3年5月21日】の両軍の布陣です。

・長篠・設楽原古戦場には、年間3万人以上の方がお見えになります。

天正3年の【長篠・設楽原の戦い】の当時の武将の年齢

織田信長・徳川家康連合軍

【織田信長】この時42歳

【徳川家康】この時34歳

【羽柴秀吉】この時39歳

【本多忠勝】この時28歳

【前田利家】この時38歳

【加藤清正】この時14歳

【柴田勝家】この時46歳

【鳥居強右衛門】この時36歳

【奥平貞昌】この時21歳

●長篠城址史跡保存館の年表より

武田勝頼軍

【武田勝頼】この時30歳

【馬場信房】この時62歳

【内藤昌豊】この時55歳

【山懸昌景】この時54歳

【土屋昌次】この時31歳

【真田信綱】この時39歳

【小山田信茂】この時36歳

【武田信寶】この時33歳

【横田綱松】この時51歳

【岡部正綱】この時34歳



【長篠・設楽原の戦いの武将年齢のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ 戦いは若い明日を奪います。

- 世界では 今も戦いの火種が続きます。
- この時代の個人の年齢は、不詳な人物が多く書籍により様々な表記がされています。これは長篠城址史跡保存館内に掲げられた看板によっています。
- 武田軍の、武田勝頼を除く表記された多くの武将が【長篠・設楽原の戦い】で命を失っています。
- 長篠・設楽原の戦いでは、武田二十四将図絵で描かれた内の八名の武将が亡くなっています。



①【長篠・設楽原の戦い・・至る経緯】

* 元龜3年(1572)武田信玄は、織田信長との同盟を破棄して、遠江・三河へと軍を進めます。浜松の東で軍勢を北進させ、徳川の領地に深く侵入します。【三方ヶ原の戦い】です。家康は、武田軍の激しい追撃をかわし浜松城に逃げ込みます。三方ヶ原の戦いで家康軍を蹴散らした武田信玄は、肅々と軍を、三河野田城へと進軍します。・・【野田城の戦い】元龜4年(1573)2月に、野田城を開城させた信玄は、ここで不思議な事に動きを止め、全軍が北へ向かいます。武田信玄が、野田城攻めの最中に、体調を崩して領国の甲斐へ帰る途中の駒場で亡くなった。この【情報】は、極秘にされていたが行軍途中の為、瞬く間に当時武田軍の家臣であった、作手の亀山城の城主【奥平氏】の知れる事ともなった。戦国の雄【武田氏】と隣国との軍事バランスが変容します。

● 作手の山家三方衆の【奥平氏】は【武田氏】から徳川家康の配下に【天正元(1573)年】再び戻った。徳川家康は、長篠城の城主に【作手の奥平貞昌】を置いた。武田家を継いだ武田勝頼が、長篠城奪還の為、父信玄の三回忌の法要を済ませ、三河の国長篠に向け出撃を開始した。

* 天正3年(1575)4月12日の事です。

新城市は戦国の歴史と史跡の宝庫

1575年
天正3年旧暦
5月21日

その角を曲がる【長篠・設楽原の戦い】
・戦いの経緯と何かがある

武田信玄亡きあと、跡目を継いだ武田勝頼は1万5000の軍隊で、徳川方の奥平貞昌が500の兵で守る【長篠城】を取り囲みました。

この事態に陥った徳川家康は、岐阜の織田信長に援軍要請を求め、(清州同盟)長篠城外の設楽原において、織田信長と徳川家康の連合軍は、戦国最強の武田騎馬軍団と戦いました。

・信長と家康が結んだ清州同盟は、織田信長が没するまで続きました。

②【長篠・設楽原の戦いの全容】

*天正三年(1575)旧暦5月、武田信玄亡きあと、跡目を継いだその子武田勝頼は、一万五千の軍勢で、徳川方の奥平貞昌が守る長篠城を奪回の為取り囲みました。

・この事態に陥った徳川家康は、岐阜の織田信長に救援を求め、(清州同盟)要請に応じて出陣した信長との連合軍で、長篠城外の設楽原において、武田軍を完膚なきまでに壊滅させました。

……これが、今に伝わる【長篠・設楽原の戦い】です。

・これを境に織田信長は、一層天下統一に向けての道を決かなものとし、反対に武田家は、衰退滅亡への道を進んでいきました。

・日本の近世の幕開けは、その後豊臣秀吉から徳川家康へと受け継がれ、関ヶ原の戦い、大坂の陣などを経て、揺るぎない徳川幕藩体制へと移行していきました。その意味で、この【長篠・設楽原の戦い】は日本の歴史上、関ヶ原を【天下分け目の戦い】というならば、その25年前、中世と近世を接点としての【時代分け目の戦い】とも云える、重要なターニングポイントの戦いでした。

【長篠・設楽原の戦いの全容のガイドポイント】

武田勝頼公



見どころ・聞きどころ * 武田軍1万人、織田・徳川連合軍6000人の戦没者を出した戦国3大合戦の1つ

- ・武田勝頼軍の出陣は、武田家を裏切り徳川家康に寝返った、奥平貞昌が守る長篠城の奪回でしたが、【結果】は設楽原での両軍の全面衝突と成りました。織田軍30,000と徳川軍8,000VS武田軍15,000の決戦でした。
- ・戦いとは時として、偶発的な小規模の戦が、全面对決になってしまう事があります。この戦いの2年前、武田信玄が、三方ヶ原で、徳川家康を粉砕したその勢いで菅沼定盈の守る、野田城を開城させた【野田城の戦い】では、武田軍は2万7000の軍勢でした。武田勝頼は、設楽原の目の前に現れた敵の大軍に、全軍突撃という大きな決断を下しました。
- ・軍勝5分を上とし、武力を驕(おごる)ことなかれ。6分の勝ちは、10分の勝也 8分の勝は危ふし 10分の勝は味方大負の下作也。・・信玄公家訓

勝頼

突撃

③【長篠・設楽原の戦い・・・本章】



VS



戦いの時系列・天正3年(1575)

4月12日 武田勝頼が父信玄の三回忌を終えて、三河長篠に向かって出撃した。

4月21日 奥平貞昌が500の兵で守る長篠城を、武田軍が1万5千の兵で包囲した。

武田勝頼は監視のために、鳶ヶ巣山砦他4つの砦(武田五砦)を築いた。

5月14日 織田信長は、徳川家康の要請を受け岡崎城に到着した。・・(清州同盟により)

5月14日 長篠城から、強右衛門と金七郎が援軍要請の使者として岡崎城へ向かった。

5月18日 極楽寺山で、軍議を開いた信長と家康は、設楽原に到着後馬防柵を築いた。

5月21日 未明 徳川家康の重臣酒井忠次は、鳶ヶ巣山砦(武田五砦)を奇襲攻撃した。

5月21日 6時頃 両軍の激闘が開始された。武田軍の山縣昌景隊が、馬防柵に突撃した。

5月21日 12時頃 織田・徳川連合軍の火縄銃の圧倒的な差が、武田勢を追い詰めた。

5月21日 13時頃 勝敗の帰趨が見える。武田勢が総崩れとなった。

5月21日 14時頃 武田軍が敗走する。武田勝頼はわずかな兵に守られて、

20^キ離れた田峯城を目指して落ちのびて行きます。

【時代分け目の長篠・設楽原の戦いの本章ガイド】

見どころ・聞きどころ

戦国大合戦ランキング

- ・長篠・設楽原の戦いでは、日本最強を誇る武田軍の【**騎馬隊**】の壮絶な突入も、連合軍が、放つ3000挺の鉄砲の前に敗れ多数の名将・勇士を失いました。。
- ・新城市設楽原歴史資料館の建つ、【**信玄台地**】は、まさに兵共の夢の跡である。設楽原の周辺には、武田将士の慰霊の碑・墓が祀られ供養されています。
- ・【**種子島**】から伝わった、(1543年)鉄砲という新兵器は、織田信長により、設楽原で衝撃的な威力を見せつけました。
- ・この戦いは、以後の戦術を一変させました。



第1位

天正3年1575 織田信長×徳川家康×武田勝頼
信長の天才が光る鉄砲戦術、馬防柵
満場一致で堂々の「合戦ナンバーワン」!

長篠・設楽原の戦い

④【長篠・設楽原の戦い・・・本章】

【火縄銃の歴史】・・・紀伊の根来、大坂の堺、薩摩の坊津、豊後の森・泉、近江の国友が当時の火縄銃の一大産地でした。

火縄銃の戦いの歴史

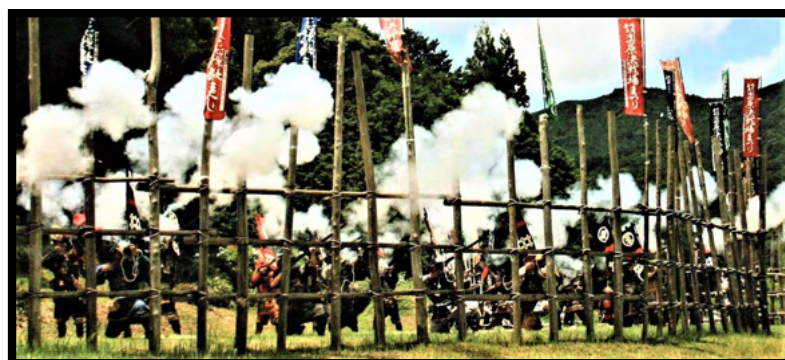


- ①天文12年(1543)種子島にポルトガル人が漂着し二挺の火縄銃を伝えた。
- ②天文22年(1553)織田信長が、斎藤道三と会見した聖徳寺で何挺かの鉄砲隊の記録。
- ③天文23年(1554)【村木砦の戦い】信長と今川との戦いで「鉄砲取り変え～とある」
- ④元亀 元年(1570)【石山合戦】: 信長と本願寺門徒衆との戦いで鉄砲三千挺が使われた。
- ⑤天正 3年(1575)長篠・設楽原の戦いで、武田勝頼と織田・徳川の連合軍との激闘で、
三千挺の火縄銃が組織的に使用されたと伝わります。
- ⑥天正11年(1583)【賤ヶ岳の戦い】: 羽柴秀吉と柴田勝家の信長の後継者争いの戦い。
- ⑦天正12年(1584)【小牧・長久手の戦い】: 徳川家康と、羽柴秀吉との覇権争いの戦い。
- ⑧慶長 5年(1600)【関ヶ原の戦い】: 徳川家康と石田三成が戦った天下分け目の合戦。
- ⑨慶長19年(1614)【大阪冬の陣・夏の陣】: 徳川家康が豊臣秀頼と争った戦い。

【長篠・設楽原鉄砲隊のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ

- ・設楽原歴史資料館を入った所で、火縄銃の簡単な説明を受けます。火縄銃の重さも同時に体感出来ます。
- ・鉄砲伝来は、以後予算無しと語呂合わせで覚えます。
【1543年】に、種子島にポルトガル人が2挺伝えました。種子島では、当時海岸で良質な砂鉄が取れました。八板金兵衛が苦心の末に、尾ねじの仕組みを解明し待望の火縄銃を一年後には完成させました。
- ・決戦場まつりでは、馬防柵再現地で、地元の長篠・設楽原鉄砲隊が【鉄砲三段撃ち】の演武を披露しています。信玄塚では、礼射を戦没者の御霊に捧げます。
- ・空砲ながら、間断なく響き渡る【銃声】と立ち上る【硝煙】が、関係者と観客を魅了します。



・決戦場まつり
馬防柵再現地

⑤【長篠・設楽原の戦い・その後】



●武田勝頼(1546～1582) *戦いで、大損害を被った勝頼は、必死で盛り返しを図る。信玄以来の敵であった北条氏政との間で、同盟関係を結び、東からの脅威を取り除いていった。しかし天正9年(1581)、徳川家康により、遠江の高天神城を奪い返された。勝頼は、韮崎(にらさき)に【新府城】を築き防戦するものの在城1ヵ月の新府城を焼いて、天正10年3月11日に天目山のふもとの田野で、北条夫人と息子の信勝と共に自刃して、清和源氏の流れをくむ、名門武田氏が滅亡した。

●織田信長(1534～1582) *戦いで、武田勝頼を破った信長は、三河・遠江の戦後処理を、徳川家康に任せ5月25日に岐阜城に帰還した。武田勝頼に打ち勝ったことで、東からの脅威を激減させた信長は【天下布武】への道を着実に歩いていく。ところが7年後の、天正10年(1582)6月2日、本能寺の変により、明智光秀の裏切りで無念の最期を遂げる事になった。

●徳川家康(1543～1616) *戦いで、武田勝頼に勝った家康は、決戦場の設楽原の【信玄塚】で7月21日に、甲州武田軍討死諸亡霊供養の、大法要を営んだ。勝頼が自刃した【田野】には【景德院】・勝頼の戒名【景德院殿頼山勝公大居士】を建立し、武田家を祀ります。そして武田家臣団を配下に組み込み、信濃・甲斐へと領土を拡大して行きます。やがて徳川幕府の礎を築く事になります。

【織田・徳川軍の甲斐への侵攻の危機が迫って来た】

【武田勝頼の決断と選択・偶然が武田家を滅亡させた】

- ・長年の敵であった、上杉謙信との間で同盟を結んだ。
- ・同盟先の北条氏政より夫人を迎え入れた。(北条夫人)
- ・防衛拠点として、新府城を築いた。躑躅ヶ崎館より転居
- *上杉謙信が厠で急死した。家督相続【御館の乱】で、上杉景勝側に付き、相手の景虎【北条氏政の弟】を自害させたことで北条氏との同盟が破棄され、大きな誤算を招いた。逆に織田・徳川と同盟を結ばれ三方の地域から侵攻が始まった。
- *新府城を築くことで、家臣団の疲弊と不満が噴出した。
- *甲州金山の採掘が少なくなり、軍資金が不足してきた。
- *高天神城を救援できなかった事で、威信の失墜に繋がった。
- *浅間山の噴火で、兵士に不安と、動揺が走り離散が相次いだ。



- ・信玄の時代には、黒川金山などから豊富な甲州金が採掘されていました。

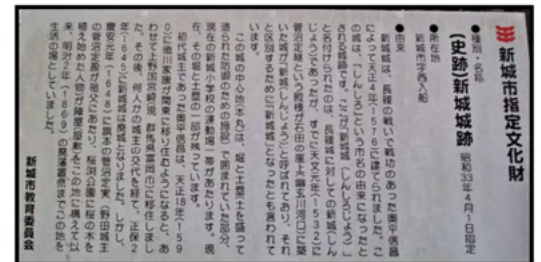


⑥【長篠・設楽原の戦い・奥平貞昌のその後】

●奥平貞昌（1555～1615）*戦いで、長篠城を死守した貞昌は、織田信長から褒美として【信】の1字を賜り【奥平信昌】と改め、主君徳川家康からは、名刀大般若長光をもらい受け、長女【亀姫】を正室に迎え、戦いの翌年の天正4年に、郷ヶ原（現在の新城小学校）に新しい城を築きました。長篠城が戦いで荒廃したことで、新しい時代に向けて平野部に拠点を移そうとした為と思われる。

・天正18年（1590）には、関東の上野国甘楽郡宮崎3万石に移り、慶長6年（1600）には、関ヶ原の戦いの功により、現在の岐阜市加納10万石に加増転封されます。慶長20年加納の地で死去しました。新城時代に亀姫との間に、4男1女をもうけました。奥平家は、徳川家の姻戚として明治維新は、豊前の国九州中津藩10万石で終えた。

・新城市役所裏の新城小学校が新城城の跡地。
新城城址跡の看板と近くの桜淵公園 → →



【新城城のその後のガイドポイント】



見どころ・聞きどころ 菅沼氏の家紋 三釘貫(みつぎぬき)

- ・新城城は、この戦いで長篠城が荒廃した為、奥平信昌が城の材木を豊川に流し、7キロ程下流で拾い上げ急ピッチで完成させたお城で、縄張りは長篠城を写しました。新城城の本丸西郭は、長篠城の弾正曲輪を、三の丸は瓢箪曲輪を移行して翌年の天正4年には入城しています。・新城城は、江戸時代に入り、周辺が天領となつてあつた後、1648年【慶安元年】から明治維新直後迄は、菅沼氏が新城陣屋として統治をしていました。現在、新城市役所の裏にある、新城小学校の辺りが【新城城】です。土塁と、新城城跡の石碑が在ります。【桜淵公園】も、新城城主が、豊川湖畔を散策するために、整備されたものと云われています。
- ・菅沼氏の菩提寺が、新城市内にある【宗堅寺】です。・菅沼氏は、野田城を築いた初代定則、二代目定村、三代目定盈の三代にわたり松平氏・徳川氏を支え続け、武田信玄を大いに苦しめ、徳川家康の天下統一に大きな役割を果たしたと云われています。 **桜淵公園にて** →

- ・桜淵のいかだカーニバル: 当時大勢の人が手作イカダで、弁天橋から豊川の急流を桜淵迄チャレンジしました、思い出写真: 私は誰でしょう?
答え 渡辺裕之氏です。



⑦【長篠・設楽原の戦い・その後の武田勝頼】 ①

・戦いの帰趨がきまった14時頃、宿将場場信春の殿(しんがり)の働きにより、武田勝頼公は、僅かな兵に守られ出沢の猿橋及び只持の小松ヶ瀬を渡り、田峯城主の菅沼定忠の案内で、田峯城を目指し落ち延びて行きます。勝頼公一行を待っていたものは、戦国の無常ともいえるドラマでした。留守居役の叔父菅沼定直や、重臣の今泉道善により城門を閉ざされ入城できないという悲劇でした。やむをえず田峯城の支城の武節城へと、無念の思いで逃げていきます。

●菅沼定忠は、翌年の7月14日の未明、田峯城を急襲し積年の恨みを果たします。(田峯城の内乱)城兵、老若男女幼少に到るまで城内の96名を惨殺し、今泉道善に至っては、鋸引きの刑に処しました。田峯城の惨劇で亡くなった御霊を祀る首塚と道善塚は田峯地区の人々に伝承され大切に祀られ今日に至っています。



👉 田峯城まつり
パンフレットより
決戦
設楽原 → 田峯城を目指して



拒絶
田峯城 ✕ → 武節城

⑧【長篠・設楽原の戦い・その後の武田勝頼】②

積雲寺➡



これを知れば貴方も歴男歴女の仲間入り・・

●設楽原の決戦から7年、勝頼公は、武田軍の立て直しと民事に日夜肝胆を砕いてきたが、歴史の流れは、輝かしい甲斐源氏の名族武田氏を滅亡させるという、戦国の悲劇を勝頼公に覆いかぶせた。天正10年3月3日、韮崎の新府城を出た武田勝頼公は、再挙を図るべく国境の岩殿城を目指した。途中、心変わりをした小山田信茂の謀反にあい、進むことも退くこともかなわず、3月11日甲斐の国天目山の山麓の田野【旧大和村 現在甲州市】で、勝頼公主従【侍44名と女房衆23名】は奮戦の後共に自刃して果てた。

●武田勝頼公を倒した織田信長公自身が、そのわずか3ヶ月後の、天正10年6月2日に京都本能寺で、明智光秀の謀反により滅びた。時が織りなす歴史の綾である。



●山梨県甲州市田野の景德院には、勝頼公と北条夫人と、嫡男信勝と家臣が祀られており【武田勝頼公まつり】が行われている。景德院山門

【武田勝頼公のその後】

見どころ・聞きどころ

甲州市積雲寺にある
武田軍の軍旗➡

・連戦連勝の武田勝頼も、【長篠・設楽原の戦い】で大敗北を喫してしまいます、この戦いで多くの優秀な武将を失ったことが、僅か7年後に、戦国の名門武田家の滅亡にも繋がります。

【武田勝頼軍は、なぜ敗れたのか？】

- ①武田勝頼が、相手大将と比べ(経験が浅い)若かった。
- ・信長42歳 家康34歳VS勝頼30歳・信長軍には秀吉38歳も
- ②信長・家康に比べ、鉄砲や火薬の入手が困難であった。
- ・大阪の堺は、信長に抑えられていた。兵農分離の部隊組織が遅れていた。一族郎党の部隊編成であった。
- ③名門武田家の跡目相続のしこりが残っていた。勝頼は諏訪の人間・・諏訪四郎勝頼が当主になった。⇒武田四郎勝頼
- ・信玄以来の宿老と、勝頼に近い家臣の間にずれが生じた事。
- ④父信玄でさえ攻略することが出来なかった、【高天神城】を攻略した自信が裏目に出た事。



⑨【長篠・設楽原の戦い・その後の古戦場の塚】

主要な【塚】【墓】【碑】・古戦場には多くが祀られている。

- ・【信玄塚】両軍戦没者の塚
- ・【小幡上総介信貞の碑】
- ・【原隼人佑昌胤の碑】
- ・【山縣三郎兵衛昌景の墓】
- ・【甘利郷左衛門尉信康の碑】
- ・【内藤修理亮昌豊の墓】
- ・【土屋右衛門尉昌次の碑】
- ・【真田信綱・昌輝兄弟の墓】
- ・【五味与惣兵衛貞氏の墓】
- ・【馬場美濃守信房の碑】
- ・【笠井肥後守満秀の碑】
- ・【山本勘蔵信供の墓】
- ・【高坂源五郎昌澄の墓】
- ・【鳥居強右衛門勝商の墓】



【塚・墓・碑『設楽原戦場考』に基づいています】

- ・しかしこの冊子では、武将のお墓が一族の墓域であり広い場合が多いため墓を全て【塚】で表記してあります。

見どころ・聞きどころ

- ・設楽原古戦場の一帯には、この他にも多くの史跡が立てられ護られ供養されています。

【設楽原戦場考の説明】

金子諸山は、渥美郡の人で、慶長十二年に戦跡巡りをして『諸山随筆・戦場考』を書いています。戦没者の三十三回忌の年であり、辺りにはまだ硝煙と、血のにおいが漂うような気配がして、戦いを直接見聞きした人からは、生々しいその様子を伺う事が出来たと思われれます。設原古戦場の貴重な【巡歴随筆】です。

武田軍の軍記：『甲陽軍鑑』



⑩【長篠・設楽原の戦いのゆかりの寺】



- ①【達磨山大通寺】新城市長篠市場51番地
馬場信房が布陣。境内裏に盃井戸の泉。
- ②【長篠山医王寺】新城市長篠字阿弥陀前2番
武田勝頼の本陣が置かれました。阿弥陀が池と片端の葦の伝説が伝わります。
- ③【興国山新昌寺】新城市有海字稲場2番地
鳥居強右衛門勝商の墓所と鳥居閣。
- ④【聖堂山勝楽寺】新城市川路字夜燈20番地
川路城主設楽家の菩提寺。岩瀬忠震の顕彰碑。長篠の役の戦没者の位牌。
- ⑤【宝乗山大善寺】新城市西入船22番地
奥平信昌の妻、徳川家康の長女亀姫のお墓が在ります。
- ⑥【蔵春山般若寺】新城市大宮字清水25番地
信玄塚の閻魔大王座像の作者、空道和尚のお墓が在ります。
- ⑦【福来寺跡】新城市竹広字信玄原594番地
江戸時代に、領主設楽貞根により天正の長篠の役の戦没者を弔う寺として建てられました。明治8年に廃寺。十三仏の閻魔大王座像が祀られています。

【戦いのゆかりのお寺のガイドポイント】：訪ねてみましょう

見どころ・聞きどころ



- ・①の大通寺と、⑥の般若寺 ⑦の福来寺は現在住職が居ない無人のお寺です。
- ・②の医王寺では、【御朱印】が頂けます。到着時に依頼すれば、見学後に頂くことができます。@300円
- ・大宮の【般若寺】の裏山には、空道和尚が入寂したと伝わるお墓が在ります。探すのに少し苦勞を要します。
- ・聖堂山勝楽寺では、【長篠・設楽原の戦い】の戦没者の、武田軍の93位牌、連合軍19位牌、諸霊の位牌、合計113位牌に、毎朝住職の読経が続いています。
- ・勝楽寺の三祖玄賀和尚導師となり火おんどりのお施餓鬼が始められました。



①【長篠・設楽原の戦い直後から現代に続く】 鎮魂の【火祭り】

・竹広の里人が、戦いが終わり、目にしたのは、永遠の眠りについて兵士の姿でした。両軍の戦没者を、2つの塚にねんごろに埋葬しました。それが【信玄塚】です。里人は、戦い直後から現在まで絶える事無く、戦没者の慰霊法要を行って来ました。今に伝わる【火おんどり】の行事です。竹広区では8月15日までに【タイ】と呼ばれる松明を準備します。夜になり、火元のお種と呼ばれるタイに続き、笛、太鼓、鐘の行列の後に、火の付いた松明が、信玄塚に繰り込む。袈裟十字にヤーレモッセナンマイダと、唱えながら松明を振り踊ります。

・これは武田軍が奮闘した姿を表していると云われています。【火おんどり】の行事は、戦いの直後から連綿と伝承されて来ました。遠方から来て無念にも、此処で亡くなった兵馬の魂の【鎮魂】の舞です。戦いは若いあしたを奪います。



【火おんどり】



松明作成

【火おんどりのガイドポイント】:伝承を受け継ぐ

見どころ・聞きどころ 新城市竹広信玄原

松明制作風景写真



- ・火おんどりは、現在竹広の住民たちで作る【火おんどり保存会】が中心になって行われている8月15日の盆供養です。
- ・戦いのあった年の夏、戦死者を埋葬した塚から大量の蜂の大群が出て来て、人や馬を刺したことから、村人は蜂を武田軍の亡霊の仕業と信じて、勝楽寺の玄賀和尚が導師となり、松明を灯して供養したのが始まりと云われています。以来、太平洋戦争の間でも、絶える事無く連綿と続けられて来ました。

【塚より亡霊蜂の大群と化して人馬を刺し信州往還不通となれば勝楽寺三祖玄賀和尚導師となり村人共々大施餓鬼松焚供養せしところ群蜂の患止みしと是即ち火おんどりの始めと言ひ伝う】

信玄塚閻魔堂の石碑より

・コロナ禍の令和2年8月15日も、5時からのお施餓鬼に続き、竹広区と八束穂信玄組長の久米様を客分として迎え、445年目となる火おんどりが規模を縮小して行われました。

火おんどりポスター



昭和29年火おんどり写真 松明をバックに



・火おんどりの伝承を受け継ぐ・・親から子供へ 先祖の心を誇りに思うから続く火祭り



ガイドの起点道の駅【もっくる新城】

新城市八束穂五反田329-7 ☎0536-24-3005

【もっくる新城】の場所が、武田軍が、11の部隊の陣容を整え、決戦の設楽原への進軍を開始したと云われる清井田の地です。

・新東名高速道路の開通に合わせて開店した道の駅で、新城インター出入口の交差点に在り、東三河の観光ハブステーションの役目を担っています。

・【もっくる新城】の名前の由来は、木が来る、人が来るから来ており、ふんだんに三河材のヒノキを建物に使用した、ドーム型のデザインに成っています。足湯と奥三河の観光案内所を併設しています。道の駅の名前は、公募で山口県の方が採用された。



新城市は戦国の歴史と史跡の宝庫

1575年

天正3年旧
5月21日

【長篠・設楽原の戦い】
その角を曲がると何かがある
ようこそ新城市へ

* ガイドはここでお客様をお出迎えいたします。

一期一会



第2章 長篠の古戦場散策

①長篠の籠城戦の舞台を 探訪しましょう。



長篠合戦のぼりまつり

(ポイント！ 実施踏査)

長篠・設楽原の戦いは、
戦国乱世の時代が、天下統一へと
中世(一族郎党の戦い)から近世(兵農分離の戦い)
へと変わった【歴史の分岐点】です。



すねえもん君

【長篠の古戦場のガイドポイント】:ゆっくり歩いてみよう！ 【織田信長・徳川家康軍はなぜ勝てたのか】

- ①長篠城の守りが固く落ちなかったこと。兵士の士気が高く兵糧も十分にあった。(但し5月14日の武田軍の猛攻で、弾正郭・二の丸の食糧庫が落とされ、絶体絶命の窮地に陥った。)・長篠城は、天然の要害の地、川面から25^mの断崖上に築かれたお城であった。
- ②長篠城から離れた、設楽原の連吾川右岸に【馬防柵】を築き、大量の鉄炮で、武田軍を待ち受けた事。
- ③長篠城の背後を突く、酒井忠次軍の、鳶ヶ巣山【奇襲作戦が成功した】事。
鳶ヶ巣山攻撃で、武田軍の背後から、鉄炮の音が聞こえ武田勝頼軍に、退路を断たれた感じを与えた事。
- ④長篠城を脱した鳥居強右衛門と、鈴木金七郎の使者が、【長篠城】と【設楽原】の情報を伝える事が出来た事。



織田・徳川連合軍

長篠城の攻防戦：古戦場散策概要

順路・・・おすすめコース



- イ. 長篠城址史跡保存館
 - ロ. 達磨山大通寺
 - ハ. 長篠山医王寺
 - ニ. 蟻封じ塚
 - ホ. 馬場信房公の墓
 - ヘ. 興国山新昌寺
 - ト. 鳥居強右衛門磔刑の碑
 - チ. 牛淵橋より見た長篠城址
- リ. 三枝守友・守義兄弟の墓
 - ヌ. 鳶ヶ巣山砦
 - ル. 中山砦
- ・その他 寄り道、道草

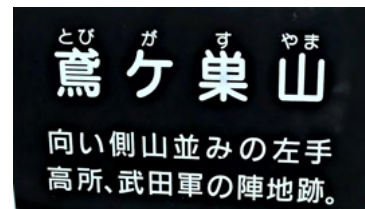


【長篠古戦場史跡散策のポイント】：安全第一



見どころ・聞きどころ 長篠の古戦場にも見どころ一杯！

- ・おすすめ【リ】 ・三枝兄弟の墓の散策
- ・おすすめ【ヌ】 ・鳶ヶ巣山砦の散策
- ・おすすめ【ル】 ・中山砦の散策

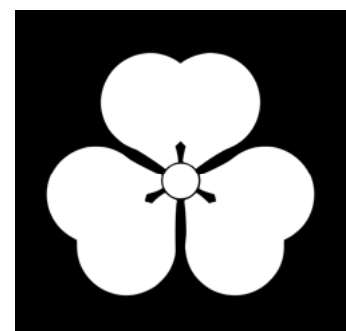


↑ 長篠城址内の看板

- ・以上の3箇所は長篠城址の対岸の為、足をのぼして車での探索をお勧め致します。必見の価値が有ります。急な山道で、道幅も狭い為、バス及びマイクロバスは通行出来ません！ ☞ 酒井忠次と家紋



・長篠城址から見た
鳶ヶ巣山遠望



【長篠大橋から見た寒狭川の流れ】

・長篠大橋から下流を見ると、前方に見える山が、決戦当日酒井忠次率いる徳川軍が、山の裏を回り込み、武田五砦を奇襲攻撃をした【舟着山】です。

・橋の真下に見える【寒狭川】の急流が、此処から90度左に向きを変えて長篠城へと向かいます。此処が城の【外堀】の役を担い、この流れの先が城の【内堀】の働きをする事に成ります。長篠城は、自然の要害を利用した場所に築かれた、守り易く、攻撃しにくいお城でした。架橋技術がない、戦国時代には、川が浅くて川幅の狭い場所を選んで渡河するしかありませんでした。設楽原で負けた武田軍も、この寒狭川の上流の、出沢の【猿橋】の地や、只持の【小松ヶ瀬】の地から落ち延びて行きます。



現在の猿橋



長篠大橋



舟着山

【長篠大橋から見た寒狭川の流れのガイドポイント】

：川を覗いてみよう！

見どころ・聞きどころ 新城市長篠地内

- ・道の駅もつくる新城から、長篠城址に向かう国道151号線上にあります。もつくる新城から約8分程度で長篠大橋を通過します。
- ・スピードの減速をして窓の左右を見学します。ここから下流では直角に川の流れが曲がり、長篠城址へと続きます。まさに此処が長篠城の外堀の役目を果たして、曲がった川が行先が、長篠城の内堀になっていました。長篠史跡保存館内の、奥の地理写真で確認することができます。【特異な川の曲がり】に驚きます。
- ・武田軍は、この上流の寒狭川の猿橋付近に、簡易な橋を掛けて渡ったと云われています。

- ・鮎滝の上流300m程の場所が渡河地点の猿橋です。



←・笠網漁は出沢地区に伝わる独特の漁法です。

▪ 信長も誉め讃えた【馬場美濃守信房公の塚は何と3箇所】

①

②

③

・ 出沢の馬場信房公の塚 ・ 橋詰の馬場信房公の塚 ・ 長篠の馬場信房公殿忠死之碑



・ 長篠合戦屏風の中にも、出沢と長篠の2箇所に馬場信房公の場面が描かれています。八面六臂の大活躍の武田軍の老将です。

長篠・設楽原の古戦場によろこそ！

新城市は、みどころ一杯素敵なエリア

- ①野田城址 ②亀山城址 ③長篠城址 ④新城城址
- ⑤長篠史跡保存館 ⑥医王寺 ⑦大通寺 ⑧新昌寺
- ⑨鳶ヶ巣山砦 ⑩中山砦 ⑪強右衛門磔刑の碑
- ⑫首洗池 ⑬勝楽寺 ⑭山県昌景公墓 ⑮天王山
- ⑯才の神 ⑰馬防柵 ⑱設楽原歴史資料館 ⑲信玄塚
- ⑳火おんどり盆行事 ㉑閻魔大王像 ㉒八剣神社
- ㉓丸山砦 ㉔雁峯山涼松 ㉕織田信長公本陣地
- ㉖大善寺 ㉗桜淵公園 ㉘長篠合戦のぼりまつり
- ㉙作手古城まつり ㉚設楽原決戦場まつり

・ 貴方は上記の中で何ヶ所尋ねたことがありますか？

【馬場信房公殿忠死之長篠の碑】



新城市長篠字西野々51-1

出沢は戦死の墓・此処は後年の新潟の子孫が立てた碑

・馬場信房は、武田信虎、信玄、勝頼の3代に仕えた譜代の宿老で、両軍の主だった将の中でも最年長でした。勝頼の代には、譜代家老衆の筆頭格となり、討ち死にしたその時62歳であった。



・墓は明治24年建立高さ1
下の右側の自然石は、最
と推定されます。文字は
高さ130cm

・馬場信房は、設楽原の決戦では、真田兄弟と共に武田右翼隊として、織田軍の佐久間信盛が数千で守る丸山砦を、わずか**700の兵**で奪い取る奮闘を見せた。敗戦が色濃くなると、主君勝頼に戦線離脱を進め、武田軍の殿(しんがり)を務め、寒狭川を超えて【**勝頼**】が落ち延びるのを見届けると、刀も抜かず自身の首を差し出し【**討ち取って手柄にせよ**】と授け最期を遂げたと言う。太田牛一の『信長公記』は、【**馬場信房手前の働き比類なし**】と、信長は誉め讃えている。

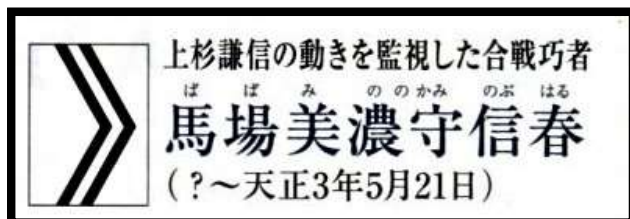


【馬場信房公の長篠塚のガイドポイント】: 戦いの跡 見どころ・話どころ 新城市長篠字西野々51-1番地



【へ】 平然と 首を渡す 美濃守……イロハカルタ

- ・馬場信房は、乗っていた白馬【**迷途月毛**】を、笠井満秀に渡し武田勝頼公が、寒狭川を越えて落ち延びるのを見届けて、【**殿戦**】を務めたと伝わります。
- ・馬場信房の長篠塚は、長篠城址から、新城方面に向かい、長篠大橋の手前を、左に折れた40^分程のところにあります。



トク得情報! 馬場塚の道を挟んだ前に食事処:【**こんたく長篠**】があります。焼き肉レストランでランチバイキングも楽しめます。美味しい鳳来牛が味わえます。JA愛知東運営

- ・馬場信房公の長篠墓の近く
長篠大橋の手前を左に曲がった場所

【中央構造線長篠露頭】

種別・名称
(地質・鉱物) 中央構造線長篠露頭

所在地
新城市長篠字古渡15番地

説明
中央構造線は、日本列島の中央(関東から九州まで)を通る約1000kmに渡る日本最長の断層系(断層の集まり)です。この断層を境に北側(日本海側)を内帯、南側(太平洋側)を外帯と呼びます。

この長篠露頭は、外帯の三波川変成帯の結晶片岩の上に、内帯の領家変成帯の花崗岩源圧砕岩が衝上し覆いかぶさっている様子のよく分かる、断層です。中央構造線の観察には非常に適した場所であり、はるか大昔の地球の活動を肌で感じることができる場所です。



新城市指定文化財

平成19年4月23日指定



新城市教育委員会



- ・中央構造線の、我が国最長・最大の断層帯の【露頭】が、この豊川の岸を降りた場所で見ることが出来ます。
中央構造線は、長野県の諏訪湖の南から、愛知県の新城市の宇連川・豊川と続き【九州の八代】迄続いています。
- ・長篠大橋周辺では、およそ【300m】の幅で見事な圧砕岩を見ることが出来ます。
- ・その露頭は、豊川右岸の川沿いに新城市の北東から、東南に向かって各所で見ることが出来ます。
写真の新城市役所庁舎の南側近くにもあります。

新城市の市章と
新城市役所



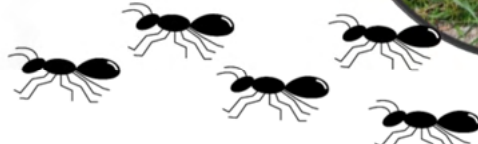
- ・新城城址前の位置が新城市役所です

【蟻封じ塚】 (その1) 新城市長篠字広面30

・長篠城の【**大手門跡**】の標識から北側30mほど奥まった位置に自然石を利用した小さな碑があります。碑には【**蟻封塔**】と彫られています。

・この塔は長篠の戦い後約200年たった安永年間に建てられたものとされている。当時此処におびただしい【**蟻**】が発生し、付近の住民は大変困惑しました。原因が分かりませんでした。この場所は長篠の戦いの時に多数の戦死者を埋葬したと伝えられた場所でした。

・村人は医王寺の住職を頼んで、戦死者を供養すると同時に供養塔を建てて【**蟻封塔**】と名付けました。



【蟻封じ塚のガイドポイント】 :戦いの跡

見どころ・聞きどころ

新城市長篠字広面30番地

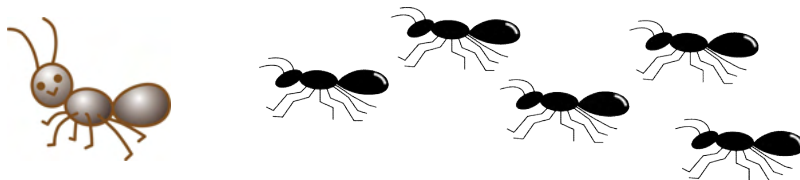
戦国大合戦ランキング

・蟻封じ塚は、長篠城址跡の西端から、国道151号線を新城方面に歩いて5分程の【**右側**】に在ります。

碑表の文字は、【安永五丙申稔四月日 金光最勝彗 彗石蟻封成・・・】とあります。

この塚の近くの、長篠城の【**大手門跡**】の石碑を見つけて下さい。長篠城の【**縄張り**】が、大変大きなエリアであった事が解ります。

今でも、この塚の付近の住民は、塚の周りの【**土**】を屋敷に撒くと、蟻が近寄らないと言われています。



【蟻封じ塚】（その2付近）
【長篠城大手門趾】



招き猫: 福ちゃんが居る評判の宝くじ売り場

・長篠城の【大手門趾】の標柱は、国道151号線沿いの【ドラックストア】の敷地付近に建てられていますが、見落としてしまうほど小さな標柱です。

・長篠城は、本丸、帯郭、野牛郭、巴城郭、瓢郭、弾正郭等、総面積約10^{ヘクタール}の縄張りの城でした。長篠城の攻防戦で、武田軍により城が荒廃した為、城主奥平貞昌は、長篠城の廃材料を豊川に流し、8^{キロ}下流で拾い上げ、郷ヶ原に新たに【城】を築城した。

・戦いの翌年の天正四年には入城しています。【新城城】の縄張りは、長篠城を模し、長篠城大手門を移して吉祥を伝えようとしたとされた。

・これが、【新城市】の名前の由来との説がある。



・ここでは【蟻】: 信玄塚では【蜂】

火おんどり









ヤレモッセ モッセ モセ
チャンチャカマツトボイテ
ヤレモッセ 南無阿弥陀仏

●火おんどり・設楽原の決戦後、四百数十年絶えることなく連綿と信玄塚で続く鎮魂の火まつり。

・鎮魂の祀りが伝承されています。

【長篠城址史跡保存館】(その1)

【長篠城址史跡保存館】新城市長篠字市場22-1番地 ☎0536-32-0162

・長篠城址史跡保存館は、昭和39年11月3日【鳳来町立長篠城址史跡保存館】として開館した。鳳来町、新城市とその周辺の人々に長篠・設楽原の戦いに関する鉄砲・武具・古文書などを募りそれが収蔵された。

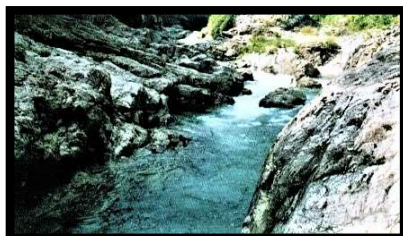
・長篠城の籠城戦に使用されたと伝わる【血染めの陣太鼓】【武田信玄の遺言書】【鳥居強右衛門の背旗】など長篠の戦いに関わる多くの資料が展示されています。

・毎年5月のゴールデンウィーク 期間中には【長篠合戦のぼりまつり】が開催され武者行列、火縄銃の演武等があり当時を彷彿とさせる。



【長篠城址史跡保存館のガイドポイント】:天候を考慮します

- ・史跡保存館前の看板で戦いの様子を見聞します。
- ・長篠城の位置関係 ・境目の城:決戦の設楽原の位置: 信長、家康の位置等・長篠城攻め本陣の医王寺の位置確認
- ・戦いの時:天正3年5月21日 ・信玄公の跡目を継いだ勝頼公は、【4月12日】に信玄公の三回忌を済ませ1万5000の兵で、三河の国長篠城奪回の為、甲斐の甲府の躑躅ヶ崎の館を出撃した。
- ・5月21日未明の酒井忠次の鳶ヶ巣山【奇襲作戦】が成功したこと。
- ・JR飯田線が史跡内を走ること。
- ・本丸跡を散策します。【約20分】(大雨の場合は回廊を回ります)
- ・横矢掛けの土塁、鳶ヶ巣砦他武田五砦の位置の説明、鳥居強右衛門の話、寒狭川と宇連川を覗く。長篠のぼりまつりの説明、城の方角説明、遠江、信濃、三河の位置関係説明。
- ・長篠史跡保存館入館【約20分】血染めの陣太鼓・武田信玄公の遺言書の説明。
- ・奥平家の話・強右衛門背旗の話・新城城の話・田峯城の内乱の話等の説明。

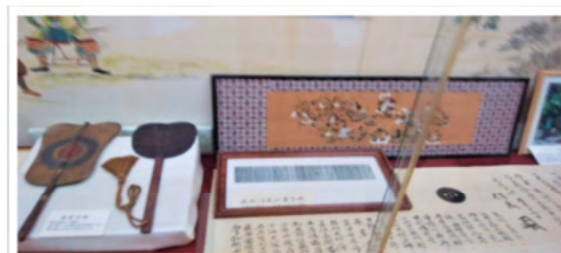


武田軍が渡河した猿橋
(寒狭川)

【長篠城址史跡保存館】(その2)

【長篠城址史跡保存館の館内】

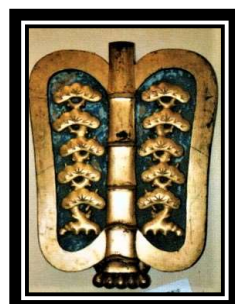
- ・ここでは【**血染めの陣太鼓**】を見逃がすことなかれ！
- ・長篠城の籠城戦で、実際に使用された、平家から寄贈された【**血染めの陣太鼓**】
これが長篠城址史跡保存館の
一番の**宝だ！**
- ・武田信玄公の【**遺言書**】・・(写し)も大変興味深いもので、馬場信房の子孫の方から伝わる物です。→**信玄公の遺言書**



【長篠城址史跡保存館のガイドポイント】:他のお客様を考慮して話す **見どころ・聞きどころ** 新城市長篠字市場市場22-1番地

- ・長篠城址史跡保存館の初代館長の、丸山彭氏は、(1902～88年)郷土史研究の傍ら、史跡保存館の建設に尽力しました。1964年の開館準備の中で、各地に出向き戦いに関する多くの資料を収集してきました。又、この戦いの書籍を数多く発行しています。
- ・【**血染めの陣太鼓**】も、その中の一つで、大分県の中津城に展示されていた貴重な品物でしたが、長篠城址史跡保存館が、出向いて譲り受けたものです。
- ・戦い当時、武田軍の猛攻中、500の長篠城兵の【**戦意鼓舞**】の為使用されたと伝わる、陣太鼓には、【**血痕**】が所どころに付いています。籠城戦の激しさを物語る物です。

- ・長篠城主
奥平信昌と家紋
奥様の亀姫



* 古戦場検定①: 徳川四天王とは、本多忠勝・榊原康政・井伊直政と誰でしょう？

【長篠城址史跡保存館】(その3)

非運の武将:武田勝頼公・・



- ・ 武田信玄と、諏訪頼重の娘を母として生まれたのが、戦国の名門武田家を継いだ、武田諏訪四郎勝頼です。
- ・ 武田信玄の長男義信は、幽閉中に非業の死。次男龍宝は、盲目で僧籍に入り三男信之は、早世した為、四男の四郎勝頼が諏訪湖の、高遠城主から武田家に(野球の代打の様に)迎えられた。

『武田信玄の遺言書の主な点』

- ①嫡子信勝16歳の時家督なり、その間は陣代を四郎勝頼と申付候。
- ②武田の旗『孫子の旗・風林火山』持たすこと無用。
- ③三年の間、我が死たるを隠して、国を鎮め候。
- ④信玄よろず工夫、思案、遠慮、十双倍気遣い致し候へ。



【信玄公の遺言書の意味する事とは?】 : 館内の遺言書のコピー

- ・ 武田信玄公が、死期を悟り勝頼の立場を【陣代】と留め、譜代の宿老たちによる集団指導体制への移行を示した、信玄公の【遺言書】は、武田軍団に、不協和音を生じさせるとともに、武田勝頼の立場を不安定にし、終生に渡り武田勝頼を苦しめました。
- ・ 武田勝頼の立場は、【遺言書】で陣代と規定され、武田家の名目的な当主は、勝頼の嫡子【武田信勝】と定められました。
- ・ 武田信玄は、【諏訪法性の兜】と武神として名高い諏訪大明神の【大】の旗印の使用を認め、武田軍の象徴の【風林火山】の旗印の使用は認めませんでした。



諏訪法性の兜 →



信玄が火葬されたと伝わる長野県長岳寺 →



【長篠城址史跡保存館】(その4)

【長篠城址本丸跡】

・長篠城は、永正5年(1508)田峯菅沼氏の一族、菅沼元成によって築かれた城で、信濃、遠江、三河と接する境目の場所で、交通の要所に在り、今川家と武田家と徳川家の勢力が、互いに激しい争奪戦を繰り広げた城です。

・寒狭川と宇連川が合流する要害の地に築城された中世の平山城で長篠の戦い当時は、武田軍が**1万5000人**の兵で包囲し猛攻を加えましたが、城主奥平貞昌が**500の城兵**で死守し**30倍の敵**にも耐えた難攻不落の城でした。・長篠城址を散策すると思わぬ弱点が有ることに気が付きます。城の監視に武田軍が築いた、武田五砦の鷲ヶ巣山からは、城内の兵馬の動きが【丸見え】であることに驚かされます。長篠城址内を、JR飯田線も走っている。

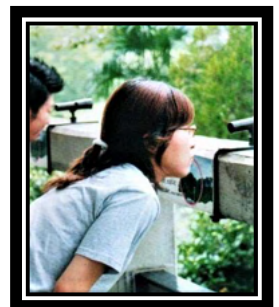


【長篠城のガイドポイント】：回廊を廻ってみよう！

保存館回廊の展望筒➡

見どころ・聞きどころ

新城市長篠城址



- ・武田勝頼は信玄公の、【三回忌】を4月12日に躑躅ヶ崎の館で執り行い満を持して【三河の東の要：長篠城を攻撃した】、そこは武田家を寝返えり、徳川家康の家臣となった、作手亀山城の城主であった【奥平貞昌】が守っていました。
- ・5月14日に、武田軍の猛攻撃で、弾正郭と二の丸(食量庫)を奪われてしまった。此処での戦いで、武田軍は800人の戦死者を被った記録があります。
- ・本丸のみを残す事になった、城主奥平貞昌は、援軍要請の使者を、鳥居強右衛門と鈴木金七郎に託します。

・岡崎への使者は同時説、別行動説もあります。



【長篠のぼりまつり】

【長篠設楽原鉄砲隊】☞



【牛淵橋からの豊川の流れ】
・ここを強右衛門が川路の
広瀬まで泳ぎ下りました。



【長篠のぼりまつり戦国街道ランのガイドポイント】

みどころ 聞きどころ 新城強右衛門久楽部のホームページを参照して下さい！

- ①第1回は、駅伝方式で行い次からはフルマラソンに変えて20回以上実施しています。
- ②岡崎城を朝5時30分にスタート、長篠城址迄65^{キロ}の完走を目指します。2時30分着予定
- ③コース：岡崎市内～額田～くらがり峠～本宮山～馬防柵～新城総合公園～長篠城址。
- ④エイド車2台と、救護車（マイクロバス）で交互に、10^{キロ}程の場所で休憩を取りながら安全に楽しみながら7名程度のグループで走ります。ランナーは公道を走る為50名限定です。
- ⑤10回大会は、記念として長篠、岡崎の往復130^{キロ}を走破した兵（つわもの）もおりました。
- ⑥戦国街道ランは、毎年5月5日の長篠のぼりまつりの恒例行事です。
- ⑦強右門マラソンの記録は、大海自動車本社（なるほど館）で見聞することができます。要予約してください。



・岡崎城の城門前
朝5時30分スタート



・新城総合公園14時頃最終エイド

【長篠城址史跡保存館】(その5)

【お堀とタニシまつり】

- ・長篠城址のお堀は【横矢掛】の造りになっています。城内に進入する敵に対して、堀を曲げて、土塁の上より敵の側面から鉄炮や矢を射かける構造です。中世の築城の造りの面影を残している。
- ・長篠城の籠城戦で、城主の奥平貞昌軍が、お堀の【タニシ】を食べて飢えをしのごき、落城しなかった好縁起により、九州大分県の中津市の、中津城の奥平神社ではタニシまつりを行い【長篠・設楽原の戦い】の戦国の往時をしのんでいる。新城市と、旧鳳来町、旧作手村からもタニシが献上されていた。



タニシ



【お堀とタニシまつりのガイドポイント】 ・横矢掛けのお堀

見どころ・聞きどころ 新城市長篠城址内

- ・【タニシまつり】は、大分県の中津市の中津城のそばにある、奥平神社の例大祭で盛大に行われて来ました。
- ・過去には、市町村合併以前は、新城市と(旧鳳来町)(旧作手村)からも毎年、代表者が地元で取れたタニシを、祭りの祭壇に供えていた時期がありました。
- ・お堀は現在空堀ですが、戦い当時は、城の北側の【貯水池】から水を引いていた記録があります。

九州大分県中津市の 中津城と奥平神社



・中津は、福沢諭吉の生誕の地です。

【長篠城址史跡保存館】(その6)

駐車場の片隅に【さかさ桑】

- ・長篠城址史跡保存館の駐車場の片隅に、小さな看板と丈の低い桑の木があります。ここを訪れた多くの方は、真っすぐに保存館や、本丸跡に向かいますので、この看板の前で足を留める方は、ほとんどいません。

- ・右は【さかさ桑】の看板です。

【長篠・設楽原の戦い】が武田方の敗北に終わり、落ち武者の多くが寒狭川を渡り、領国の、信濃や甲斐を目指して落ち延びて行きました。右の看板を見てください。

* 寒狭川の中流にある、山に囲まれた小さな、小松集落に残る伝説です。



「さかさ桑」
 長篠の戦の落武者が、寒狭川の中流にある小松集落にさしかかつて、民家の庭に杖をつきさした。土地の者はその剛力を見てただものではないとおもいその杖に手をふれなかつた。落武者は武田勝頼であつた。杖からは桑の芽が出たが下方に向かつてだけ伸びるので「さかさ桑」と名づけられた。
 近年それが枯れたので、土地の人がおしみ新しいのをこの土地に植えた。

【長篠城址史跡保存館のガイドポイント】:さかさ桑は他にもあります

見どころ・聞きどころ 新城市長篠城址内

戦国大合戦ランキング

- ・昭和4年12月17日に、長篠城址の重要な部分が国の指定史蹟となりました。
- ・昭和39年(1964)長篠城内の【帯郭跡】に建設されました。鉄筋コンクリート2階建て瓦葺きです。階下は、休憩所・会議所・二階は展示室になっています。
- ・二階には回廊を設けて、展望筒を設けて、周辺の史跡の位置が分かるようになっています。医王寺・大通寺や鳥居強右衛門が、長篠城の城兵に叫んだ場所等が見れます。
- ・展示品は、長篠の戦いを中心にした武具・文献など多くの遺品で、戦国の【激動期】をわかりやすく展示しています。



- ・強右衛門が、長篠城の城兵に向かって叫んだ場所は、長篠城址史跡保存館のすぐ近くで、強右衛門が磔刑になった場所【有海の篠野】とは異なります。

【上空からの長篠城址全景】

- ・JR飯田線の線路が城址内を走ります。
- ・林に囲まれた、四角い場所が本丸跡。
- ・寒狭川と宇連川の合流地点が長篠城址。
- ・川面から城址までの高さは、30m程。
- ・牛淵橋の下流周辺に、武田軍は鳴子綱を張って長篠城の警戒をした。
- ・鳥居強右衛門と、鈴木金七郎は、武田軍の警戒の中、長篠城の不浄口から抜け出し、梅雨明け時の水かさが増した豊川の濁流を泳ぎ下った。



【風になびく葦の如く 山家三方衆】:地方豪族の生きざま

- ・【田峰の菅沼氏】 【長篠の菅沼氏】 【作手の奥平氏】の地方豪族は、諸大名の動きの中で、時には人質を差し出し、一族兄弟が敵味方に分かれて戦いました。この山家三方衆の従属と同じく三河の国の長篠城も変遷してきました。
- ・天文年間(1540頃)・・・松平清康死後・・・今川方に
- ・永禄3年(1560)・・・今川義元死後・・・松平方に
- ・永禄8年(1565)・・・武田信玄侵入後・・・武田方に
- ・元亀4年(1573)・・・武田信玄死後・・・徳川方に

* 作手奥平氏が武田方から、徳川家康に従属を変えたことが、長篠城の籠城戦から、設楽原の決戦に繋がることとなります。

- ・長篠城主奥平貞昌の弟:奥平仙千代の墓(14歳) ➡ 鳳来寺山麓の門屋地区で祀られています。近くには、於ふう(16歳)虎之助(16歳)の墓も祀られています。・奥平家の礎となり、奥平家に繋がる3人は人質の定めとして処刑されました。



奥三河山家三方衆
やまがさんぼうしゅう

【ああ鳶ヶ巣山】

作詞者 中根修巳

1. 山百合匂う鳶ヶ巣の
眼下に見えし長篠城
若き城主の守りたる
城は武田に囲まれて
四つ菱紋の幟はためく
2. 五月雨そぼ降る鳶ヶ巣に
酒井忠次奇襲隊
夜道山道回り道
火縄の銃口火を噴けば
武田の五砦落ちにけり
3. 歳月流れて四百年、
中山砦は姿変え
昔を忍ぶ公園に
遙かに望む古戦場
歴史を今に語るかな

【長篠城址の縄張り】



【長篠城包囲配陣表】 : 武田軍の包囲布陣

・ 大通寺山	馬場信房ら	2, 000人
・ 天神山	土屋昌次ら	2, 500人
・ 篠場野	穴山信君ら	1, 500人
・ 有海原	山縣昌景ら	1, 000人
・ 医王寺山	武田勝頼	3, 000人
・ 鳶ヶ巣山	武田信実ら	1, 000人
・ 岩代	内藤昌豊ら	2, 000人
・ 本陣後方	甘利信康ら	2, 000人

・ その他 久間砦 中山砦 姥ヶ懐砦 君ヶ伏床砦

- ・ 長篠城の城藪稲荷の【おとら狐】の伝説
- ・ 石座神社の空道和尚作と伝わる【神馬】の伝説
- ・ 連吾川の【賓頭盧ばばあ】の伝説など古戦場の各地に多くの伝説が伝わります。



武田軍

【達磨山大通寺 曹洞宗】

・応永18年(1411)の創立と伝えられています。長篠の戦いでは、眼下に長篠城が望める最前線の寺で、武田軍の馬場信房が布陣した。

・馬場信房は、決戦回避を主張して果たせなかった同志の将、山県昌景、内藤昌豊、土屋昌次らと明日の奮闘を誓い、今生の別れの【水盃】をこの大通寺で交わし、決戦の地【設楽原】へ出陣していったと伝えられてる。境内に盃井戸の泉が在る。

・戦いの前年天正2年、武田勝頼は、高天神城を攻略し、明智城を攻め連戦連勝の【戦国最強】の高揚した軍隊でした。勝頼の選択は、・・前に進む道を選びました。



・武田信玄時代の
武田二十四将絵図

【達磨山：大通寺のガイドポイント】：訣杯の泉を探してみよう 見どころ・聞きどころ 新城市長篠字市場

・長篠城址からすぐ近く of 場所に在ります。勝頼の本陣の置かれた【医王寺】へは、今でも裏山から山道を歩いて行くことができます。(連絡道) 当時此处は、武田軍の長篠攻めの、最前線の場所でした。武田軍の、馬場信房軍が陣を敷きました。武田四将訣杯の【泉】が見どころです。



・此处からは、眼下に長篠城址と、宇連川対岸の【武田五砦の鳶ヶ巣山】を望む事が出来るロケーションが素敵なエリアです。武田軍の末裔の、長篠望月家に在った大灯籠が出迎えてくれます。

・現在は住職が無人のお寺で、医王寺住職が兼ねています。



・長篠城址から移築された
城藪稻荷大明神



【長篠山医王寺 曹洞宗】

・本尊は、【薬師如来】開山は1514年

長篠城主の菅沼元就ら、菅沼家一門の厚い庇護を受けました。

・天正3年の長篠の戦い時には、武田勝頼の本陣が置かれ軍議が開かれました。山門脇には【弥陀池】と呼ばれる池が在り、勝頼の設楽原への出撃を諫めたアシの精が、勘気にあい切り付けられ片葉になったと伝う【片葉のアシ】の伝説が残ります。

・お寺の裏山には、長篠城を見渡せる見張り台が復元されています。(平成26年6月 22日)医王寺には民俗資料館と、寺宝殿がありいずれも無料で見学することが出来る。



片葉のアシ➡

【長篠山：医王寺のガイドのポイント】：片葉のアシを探そう

見どころ・聞きどころ 新城市長篠字阿弥陀前：医王寺



- ・現在の医王寺の本堂は、大正3年5月に再建されたものです。
- ・【医王寺の物見櫓】医王寺開祖500年祭と、長篠のぼりまつり50周年をお祝いして、高さ8m広さ12m²の木製で長篠環境委員会により平成26年6月22日に、医王寺山の頂上に完工されました。医王寺山には、左右どちらからでも登る事が出来ます。杖が準備されています。往復約20分程度要します。
- ・民俗史料館と、医王寺2階の寺宝殿も【必見】の価値が有ります。時間が許せば両方の館の見学をお勧めします。この寺が、長篠の戦いの本陣跡であった関係上、武田軍の遺品も数多くあります。長篠城址史跡保存館見学後【医王寺】にも足を延ばしたい場所です。
- ・医王寺の【弥陀池】は、令和2年1月19日に、テレビ東京の【緊急SOS池の水全部抜きます】の撮影が行われ多くの見物人で賑わいました。



・弥陀池では、石亀・ぬま貝・大タニシなどの準絶滅危惧種が多く確認されました。

【医王寺民俗資料館】

・曹洞宗医王寺境内にあります。
 この写真が物語るように、医王寺は、
 鳳来町時代から古物の収集に努めて
 現在では、品数と珍品とで他に無い
 資料館で、一見の価値があります！
驚きです！お寺の2階の寺宝殿も最
 高ですが、この民俗資料館も、昔の生
 活道具を懐かしむ事が出来る見学場
 所です。しばし過去にタイムスリップ
 します！お寺様の好意で無料です。
 ・医王寺の裏山頂上には、平成
 26年6月22日に復元物見やぐら
 が完成し、ここからは、長篠城址
 が見渡せ、戦国の戦いに思いを
 馳せることができます。20分間要
 ・その間に素敵な美人お庫裏さんが
 書いてくださる**御朱印**をゲットしよう！



【武田勝頼の運命を分けた3つの選択】：どれが正解なのか？

アンダーラインが勝頼が取った選択

・【長篠・設楽原の戦い】の決断

A案 敵を前にしての一時退脚

B案 長篠城を力攻めにして、そこでの籠城戦

C案 設楽原に打ち出して決戦を挑む



・【御館の乱】における支持の選択の決断:外交政策失敗

A案 上杉景勝派に味方⇒・甲相(氏政)越の3国同盟破棄

B案 上杉景虎(北条氏政の弟)⇒自害

・【再起を期した戦い拠点】の選択の決断

A案 真田昌幸の上州【岩櫃城】の選択

B案 防衛拠点として勝頼が築いた【新府城】の選択

C案 小山田信茂の【岩殿城】の選択

勝頼の選択

・貴方ならどれを
 選択しますか？



【興国山新昌寺 曹洞宗】

・本尊は、【釈迦牟尼仏】JR飯田線鳥居駅の近くにお寺が在ります。鳥居強右衛門の墓所と【鳥居閣】が祀られている。

・長篠の戦いの頃は、【喜船庵】の名前でした。戦い時、この有海地区は激戦地となりました。強右衛門はここ篠場野で、巡視中の穴山信君家来の河原弥太郎に捕らえられましたが、忠義を貫いて【真実】の事を叫んだので、磔により、壮絶な最期を遂げた。

・明治35年に、鳥居強右衛門を供養し業績を讃え、後世に伝える【鳥居閣】が建立され、毎年4月下旬には、地元有海区の人により【鳥居強右衛門まつり】が行われ手厚く供養されている。



鳥居強右衛門の墓所



【興国山：新昌寺のガイドポイント】：お墓にお参りしましょう

見どころ・聞きどころ 新城市有海字稲葉：新昌寺境内

- ・新昌寺内に在る、鳥居強右衛門を祀る【鳥居閣】は地元住民により境内に建てられました。
- ・近くのJR飯田線の駅名も【鳥居駅】と名付けられました。
- ・戦い後、鳥居強右衛門の遺体は、近くの【喜船庵】に埋葬されました。喜船庵とは現在の新昌寺です。お墓の碑面は以下の様に彫られています。

天正三乙亥年

智海常通居士 五月十六日

俗名 鳥居強右衛門勝商 行年三十六歳



- ・鳥居強右衛門の子孫は、主君奥平信昌により取り立てられ代々強右衛門を名乗り、幕末には忍城の家老にまで出世しています。

【鳥居強右衛門磔死之趾碑】（その1）

武士の鑑

・鳥居強右衛門勝商は、5月14日夜半に、武田軍に包囲された、長篠城の不浄口より出て、徳川家康の岡崎城に【援軍要請】の使者として向かいます。鈴木金七郎が同行。

・水かさが増した激流の豊川の鳴子を潜り抜け、広瀬で陸に上がり、雁峯山で狼煙を挙げてひた走りに岡崎城を目指した。

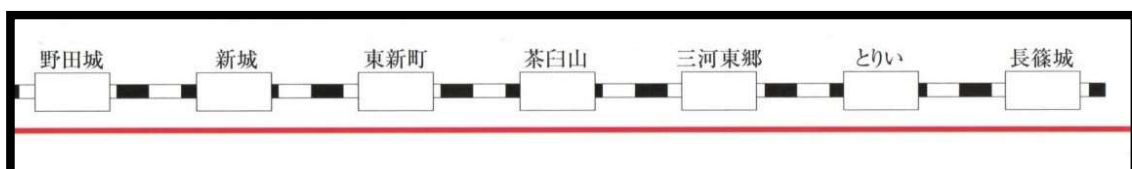
・首尾を果たし、長篠城に潜入しようとしたところ、武田軍の合言葉「ホウ」と声を掛けられ「ショウトウ」と答えることが出来ずに捕らわれてしまいます。そして【援軍来るの真実】のことを叫び、磔（はりつけ）になりました。長篠城を救った戦いの恩人です。



【鳥居強右衛門のガイドポイント】：磔死之趾碑の位置は長篠城の対岸 見どころ・聞きどころ 新城市有海字篠原：長篠城址対岸

- ・鳥居強右衛門は、太平洋戦争の戦前は、忠君愛国のシンボルとされ、毎年4月末に行われる【鳥居強右衛門まつり】も盛大に行われていましたが、近年は、地元有海区の住民が【郷土の英雄】としてまつりを行っています。
- ・太平洋戦争中には、【生きて虜囚の辱めを受けず】と強兵策に、帝国陸軍参謀本部に利用されました。
- ・新昌寺から、牛渕橋に向かって飯田線の踏切の手前を左に折れた場所に、【鳥居強右衛門磔死之趾碑】の石碑があります。大正2年4月16日に、長篠古戦場顕彰会的主唱により建てられました。・新城市内には、戦いに因んだ駅名が多くあります。野田城駅・新城駅・茶白山駅
・鳥居駅・長篠城駅など

・JR飯田線鳥居駅



【鳥居強右衛門磔死之趾碑】 (その2)

【鳥居強右衛門磔刑の背旗】

・鳥居強右衛門が、捕まり磔にされるまでの間、監視をしていた武田軍の家臣の落合佐平次道久が、強右衛門の忠義心に感動し、壮絶な姿を絵に書き写し自身の【旗指物】にしたもので、背旗は、新昌寺と東京大学史料編纂所に現存している。

・鳥居強右衛門勝商の辞世の句

【我が君の 命に代わる玉の緒の
何いとひけお武士の道】



・縦146cm 横133cmの絹地

『鳥居強右衛門勝商についてガイドポイント』

見どころ・聞きどころ

- ・鳥居強右衛門の墓は、新昌寺の他にも、作手鴨ヶ谷の【甘泉寺】境内にも在ります。作手亀山城の奥平氏により、菩提寺である甘泉寺に、墓参を容易にする為に新城市の有海の、新昌寺から分骨してお墓を建てました。
- ・このほかにも、生誕地の豊川の市田に在る、【松栄寺】にも鳥居強右衛門勝商生誕の地碑と、お墓があります。近くの赤塚山公園にも、【鳥居強右衛門顕彰碑】が在ります。
- ・鳥居強右衛門の川を泳ぎ、野山を【トライアスロン】の様に激走した活躍が【長篠・設楽原の戦い】を織田信長・徳川家康軍を勝利に導きました。
- ・鳥居強右衛門の辞世の句は、後年に作られたようです。

・鳥居強右衛門を讃える歌は、明治、大正、昭和、平成と数多く作られて歌われて来ました。44ページに載せたのは平成の曲です。



【鳥居強右衛門の生誕地のお寺：松永寺】

・天正元年(1573)年開創の松永寺は、曹洞宗のお寺で、鳥居強右衛門の生誕地の、豊川市の市田地区に在ります。墓地の奥には、鳥居家累代の墓があり、その中に強右衛門夫妻の墓がある。烈士鳥居強右衛門勝商公御木像安置所には、勝商が磔にされた姿を模った木像が安置されている。



・松永寺の素敵な手入れされたお寺の芝生に心を癒されます。近くの赤塚山公園には、【鳥居強右衛門勝商顕彰碑】がある。

・鳥居強右衛門の墓は、この他に、新城市作手の甘泉寺と、新城市有海の新昌寺にある。



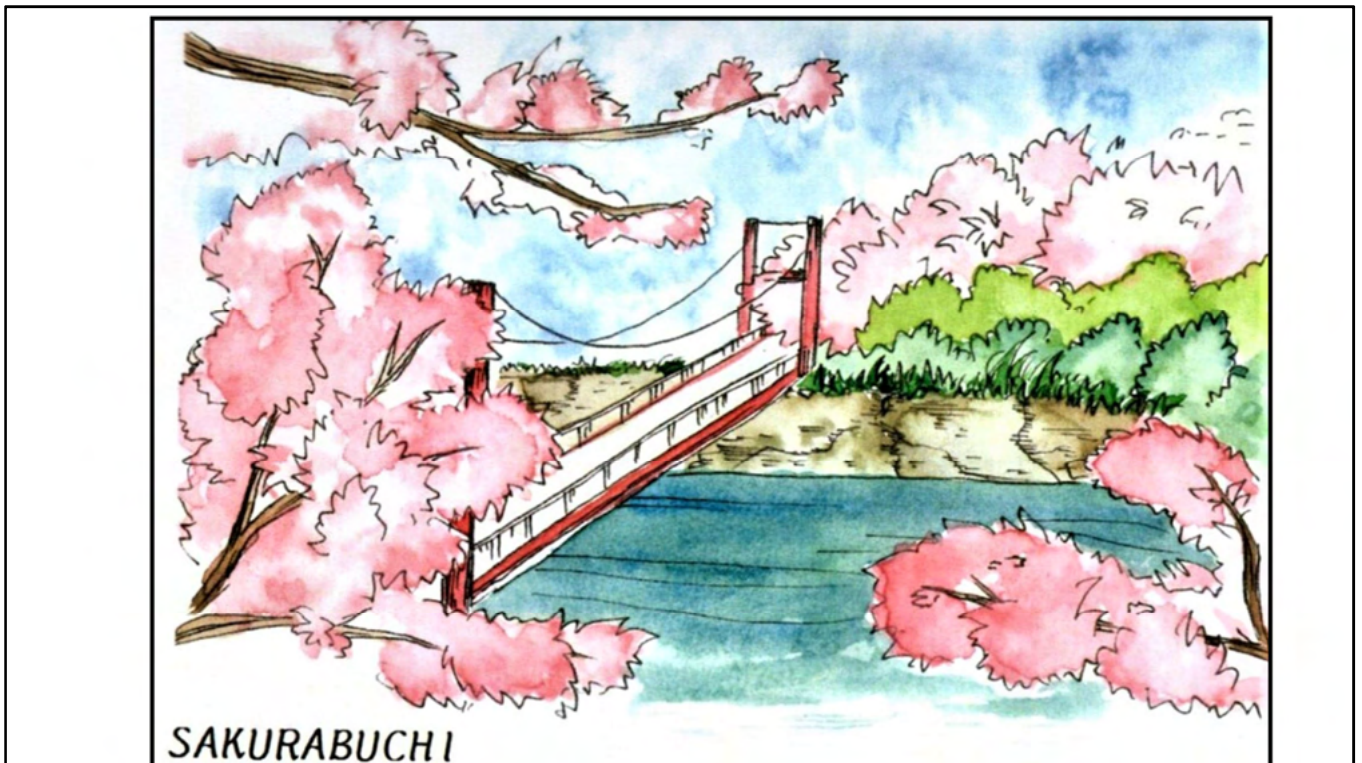
- ・愛知県豊川市の市田の松永寺の境内には、市田【鳥居本家】の墓地があります。住所・豊川市市田町字中之島57番地
松永寺には木像の鳥居強右衛門がお祀りしてあります。本堂裏に、【烈士鳥居強右衛門勝商誕生の地】の石碑高さ3m程が「愛知県」により建立されています。



- ・戦国武将は、戦い時は、神社仏閣に陣を布陣するのが、常でした。長篠・設楽原の戦いでも、武田勝頼は、長篠城の近くの【医王寺】に置き、織田信長は、上平井の【極楽寺】に本陣を置いています。戦火で焼失する場合も多く、極楽寺は、武田軍により燃やされた？とも、あるいは、失火？とも伝わります。徳川家康は、本陣を竹広の【八剱神社】に置きました。
- ・設楽原に到着次第、織田信長・徳川家康が軍議を開いた、【極楽寺跡】は、昭和43年に豊川用水路西部幹線により用水敷となり完全に消滅しました。



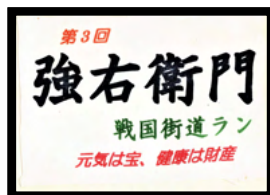
・上の色紙が読めますか？ 元気は宝 健康は財産 笑顔は長寿の源



SAKURABUCHI



【長篠のぼりまつり】
岡崎城～長篠城址到着時
新城強右衛門久楽部
ゼッケン⇒



国街道ラン(65キロ)参加証

とりい すねえもん かつあき

軍神鳥居強右衛門勝商の
得々情報を教えちゃおう
遠からん者は音にも聞け
近くは寄って眼にも見よ !

強右衛門は実は商売繁盛の
神様だった!

謹
呈



長篠合戦の鳥居強右衛門の働きは、郷土の英雄として篤い崇敬の念で語り継がれており、その敬慕信仰の想いは有海の【鳥居権現】神社にも伺い知ることが出来ます。強右衛門の図は、昔から家運隆盛・商売繁盛に御利益が有るとされて大切にされて来ましたが、その秘密は名前の中に隠されていたのです。易学によりますと、鳥居の姓は神社の御加護を授かり、強右衛門は家督の繁栄を顕わしており、勝商はソロバン上手として商売に秀でた易が出ています。金運と幸運を呼ぶ強右衛門の図は、現代の不景気を打破する商売繁盛護符として評判に成っています。



・ヒト ニハ シンボウ ダイ イチ
と書いてお金という字になります。

【もう一人の岡崎への援軍要請の使者】

鈴木金七郎重正

・鈴木金七郎は、新城市富永(旧川上村)の生まれで、設楽原の戦いに徳川配下として、鳥居強右衛門と共に長篠城から脱出して、雁峰山で脱出成功の合図の狼煙を上げ戦いの勝利に大きく貢献した。

・岡崎からの帰り道が二人の運命を大きく分けた。強右衛門は、武士の鑑として郷土の英雄になる。金七郎は、家康の道案内役を果たしたが、戦い後は、戦いの惨さや、人の世のはかなさを覚え、作手太田代に隠居して農道を選んだ。しかし、奥平信昌の四男の松平忠明が、作手亀山城の城主になった時、天正の旧功(援軍要請)に対して恩賞として二百石を賜る。



【鈴木金七郎の業績を見直す会】では、様々な地域活動を通して、鈴木金七郎重正を顕彰して多くの方に業績を発信しています。

【ら】 来援を見届け金七郎 帰農する・イロハカルタ

* オリジナル応援歌【我らの鈴木金七郎】制作

* 創作講談:【もう一人の強右衛門:鈴木金七郎】

狼煙場の【ノタ場】に行こうハイキング

* 鈴木金七郎物語:カラクリボックス制作

* 狼煙場ウォーク

* 鈴木金七郎を見直そう講演会の実施

* 看板等の制作・設置

* 決戦場まつり:長篠のぼりまつり:古城まつりでPR



設楽原古戦場
いろはかるた

⑥ 来援を
見届け金七郎
帰農する

昭和五十六年七月九日建立
平成十六年再建
平成二十九年改訂
設楽原をまもる会



【烈士 鳥居強右衛門勝商の歌】

【アー鳥居強右衛門】唄・南城哲二

1番 太鼓の音は 強くてもすべてが細る城の中
馳せて誰ゆく 岡崎城に 主見つめる目は一つ
男決意の胸の内 あー鳥居強右衛門 闇を待つ

2番 鳴子鳴るなと 潜る川 運命に任せ広瀬岸
着けば雁峰山 暁に狼煙一筋 あとに見せ使命
果たしてまた三筋あー鳥居強右衛門 なぜ戻る

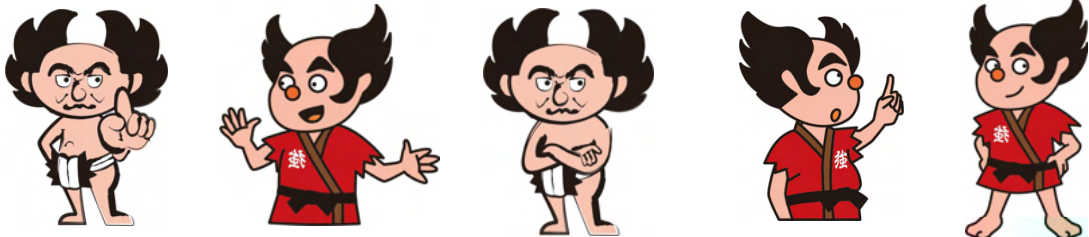
スピーカーをクリックしてください。

PDF化したものでは聴くことができません。



【烈士鳥居強右衛門勝商の実像に迫る】

- 天正3年5月14日、長篠城では、落城寸前の緊迫した空気の中で軍議が開かれた。この時はじめて、鳥居強右衛門と言う名が表面に出た。長篠城の運命については、織田・徳川両氏の運命に関わる重大な任務を担って、城を脱出し救援の大役を果たし、救援は来るぞと、真実の事を叫んで5月16日に磔になった。雑兵という低い身分の彼が、歴史の表に立って活動したのは、実にこの【3日間】であった。そして日本の歴史に大きな役割を残しました。書籍『鳥居強右衛門の子孫より』
- 強右衛門の子孫は、代々奥平貞昌の4男松平忠明及びその子孫に仕え明治維新を埼玉県忍城で迎えました、14代鳥居商方が最後の武士である。又大分県中津市では、中津藩10万石、最後の殿様が15代奥平昌邁公であり、5月には九州中津市では【タニシまつり】を行い往時を偲んでいます。



・ 鳥居強右衛門のイラスト

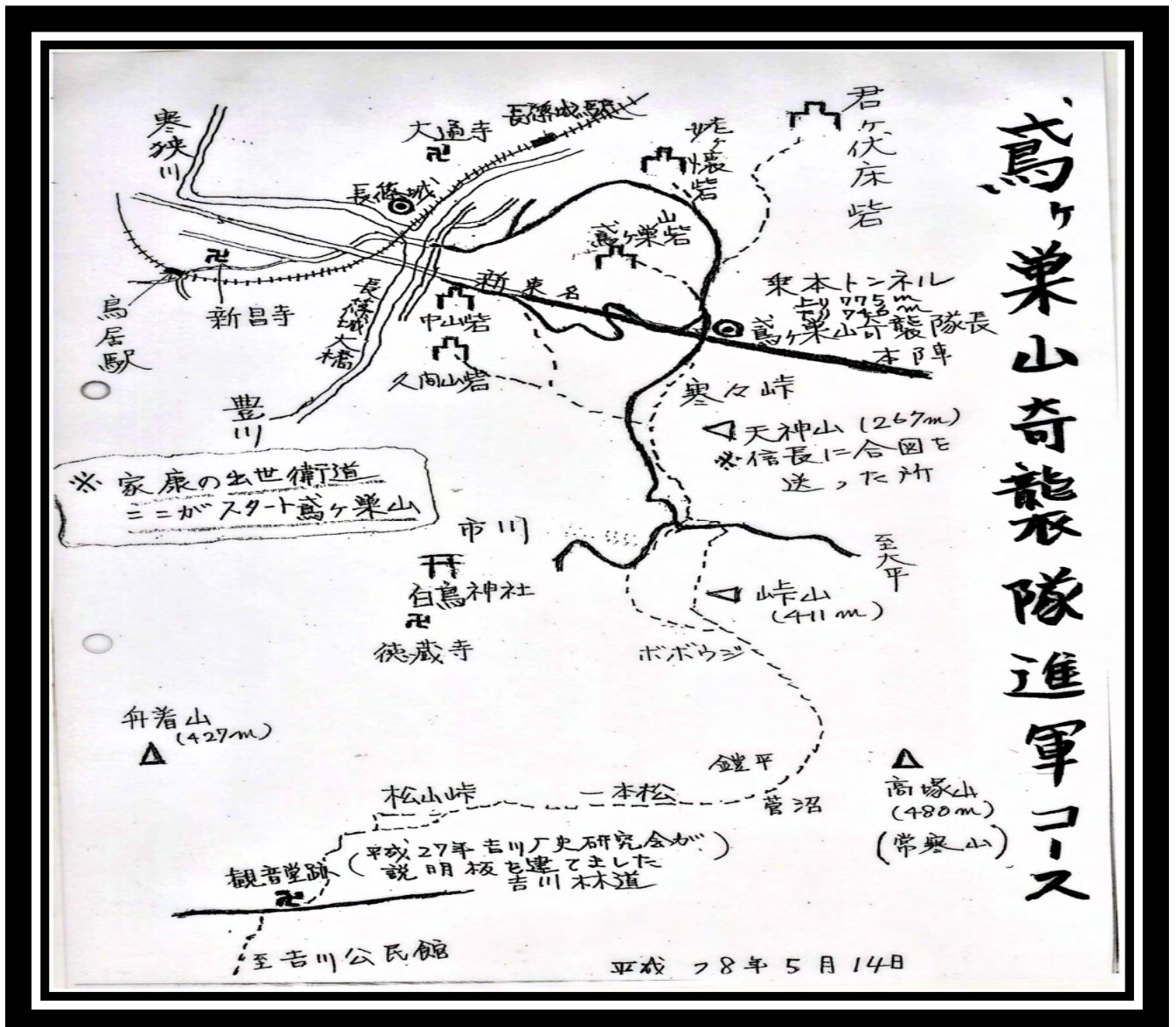
【酒井忠次の大迂回作戦】・長篠城の攻防戦

・徳川家康の家臣酒井忠次は、極楽寺での軍議の席上【鳶ヶ巣山奇襲作戦】を提案したが、信長に即座に却下された。だが秘密裏に酒井忠次を総大将とする奇襲攻撃隊が編成され、極楽寺から直ちに豊川下流の浅瀬を渡り、舟着山を大迂回して、松山峠から菅沼山に到った。日づけは運命の【5月21日】の払暁でした。武田五砦の背後へと迫った、かくして決戦の夜が明けた。銃声と怒号が山や谷にこだまし、武田軍は大混乱の内に大将武田信実が討死し、武田勢は、山を下り乗本村から有海原方面へと敗走した。

・この奇襲作戦は、単なる小隊の激突の戦いではなく、この決戦を左右する大きな役割を果たした。武田本体の背後を突いて、動揺させ退路を断られた恐怖心が設楽原での武田軍の一斉突撃となる。
マスクを付けた酒井忠次の陶人形 →



・奇襲隊進軍コース図 ・酒井忠次の陶人形 乗本 梶村昌義氏提供



・パソコンで酒井忠次と山形県鶴岡市を検索して見たら、驚く事柄が出てきました！

【三枝兄弟の塚】・長篠城の攻防戦

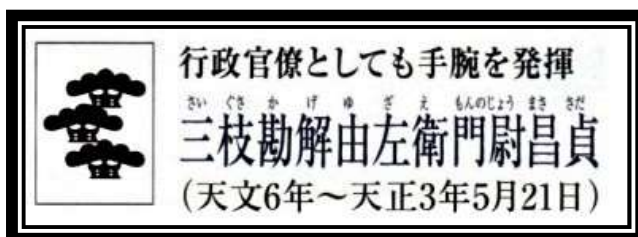
- ・三枝勘解由守友、守義兄弟は、武田五砦の【姥ヶ懐砦】で武田浪人衆を率いて、徳川家康の家臣、酒井忠次軍と戦い、本多広孝に攻められ満身創痍な最期を遂げました。
- ・お墓は、牛淵橋を渡り、左に進んだ乗本の村落から少し奥まった森の中に在る。
- ・三枝氏は、古代以来の甲斐土着の豪族で、武田信玄の重臣：高坂弾正忠昌信が記したとされる『甲陽軍鑑』によれば、三枝勘解由守友は、武田譜代の重臣の山縣昌景を寄親としていて、山県善右衛門で優れた足軽大将でした。騎馬30騎、足軽70人を指揮したと云われている。



【三枝守友・守義兄弟の塚のガイドポイント】：奇襲の跡

見どころ・聞きどころ 新城市長篠乗本地内

- ・大正3年5月に長篠古戦場顕彰会が、【姥ヶ懐武田浪人組陣地】の花崗岩の石柱を建てました。此の大きなお墓は、昭和57年12月15日に、東京都に住む三枝氏の【末裔の杉本幸子氏】が、私財で建立したお墓だそうです。
- ・酒井忠次率いる織田・徳川軍の【奇襲隊】は、平井の【極楽寺】で軍議を開くと、5月20日に秘密りに出陣し、船着山を迂回して、松山観音堂前から、松山峠を超えて、5月21日の払暁武田五砦に襲い掛かりました。この奇襲により武田五砦は、壊滅して長篠城も、武田軍の囲みから開放されることになりました。奇襲隊の第一目標は長篠城の奪還でした。



奇襲

【鳶ヶ巣山砦】・長篠城の攻防戦 【鳶ヶ巣山砦跡】・城の真東600^mの標高140^m位置

・武田勝頼は、長篠城の攻撃の為の付城として、鳶ヶ巣山砦、君ヶ臥床(きみがふしど)砦、中山砦、久間山砦、姥ヶ懐(うばがふところ)砦の【武田五砦】を築いた。その一つの鳶ヶ巣山砦には、武田信実、小宮山信近らが陣を敷いた。

・5月21日早暁、徳川家康の家臣、酒井忠次軍の奇襲攻撃を受け、武田五砦は灰燼にきした。

・武田信実(信玄の弟)を含む多くの将兵が戦死した。この時の戦いの火縄銃の500挺の轟音により、設楽原の壮絶な決戦の【火蓋が切って落とされた】



【鳶ヶ巣山砦のガイドポイント】：奇襲の跡

見どころ・聞きどころ 新城市字鳶ヶ巣：乗本

- ・乗本集落から急な斜面の、鳶ヶ巣山を登り切った場所に在ります。武田軍が築いた五箇所の付け城の【要】の役割を担いました。当時は、この場所から長篠城が、眼下に見渡すことが出来ました。
- ・万灯山では、毎年8月15日には、【乗本万灯】で、戦いの戦没者の慰霊の盆行事が行われています。
- ・鳶ヶ巣山の奇襲攻撃は【何時】に行われたのか？
看板には21日の払暁と書かれていますが、払暁とは何時なのか、『信長公記』では、【辰の刻】とあります。
辰の刻とは、午前8時頃ですので、早朝に設楽原で戦闘が開始されたとしたら2時間後となります。
奇襲攻撃は、武田軍を【背後】から脅かしました。
- ・【久間山砦】・山の山頂に本陣跡とみられる場所と、それを現す石碑があります。往時は、久間山から川向うの、長篠城や篠場野、有海村辺りが一望でき、豊川を見張る【監視役】の役割を担っていました。
- ・暁の酒井忠次軍の武田五砦の急襲攻撃の成功は、戦いの勝敗に大きな役割を果たしました。酒井忠次はこの戦いのMVPの武将です。
- ・鳶ヶ巣山砦から復元中山砦に向かうには、二又に分かれた道の下方向に進みます。

【中山砦】・長篠城の攻防戦

【復元中山砦跡】

・平成28年2月13日の新東名の開通に合わせて、乗本トンネルの上の位置の長篠城址が見渡せる所に、中山砦が復元されました。眼下に新東名が見渡せる【ビュースポット】としても訪れる価値があります。長篠城の付城として、五味与惣兵衛等520騎の武田軍が、渡合いの渡河点の監視をしていた。

・信長と家康は、平井の極楽寺で軍議を開き、家康の家臣の、吉田城(豊橋)城主酒井忠次の部隊に、舟着山を迂回させ5月21日の未明、鳶ヶ巣山の武田五砦(中山砦など)に奇襲攻撃を仕掛けました。【長篠城の救援に成功し】長篠城主奥平貞昌も、武田軍の背後を攻める形になりました。

復元された物見やぐら



【中山砦のガイドポイント】: 奇襲の跡

見どころ・聞きどころ 新城市乗本字坊貝津・舟津



【き】 奇襲隊 広瀬を渡りて 鳶ヶ巣へ・・・イロハカルタ

- ・鳶ヶ巣砦跡から、車で林の中を5分程の場所に在ります。
- ・この中山砦からは、長篠城址、医王寺などを眼下に見渡すことができます。新東名高速道路の先には、【設楽原古戦場】も望む事が出来ます。雁峰山に連なる本宮山の山並みも、はるか向こうに見えます。
- ・鳶ヶ巣山奇襲攻撃隊の編成には、酒井忠次を総大将として、地元の地理に明るい、設楽貞通(川路城主)・菅沼定盈(野田城主)・(奥平貞能)・奥平貞昌の父)などが先導して、道案内には、吉川村の豊田藤助、乗本の阿部四郎兵衛、兵数約3000人であったと伝わります。この攻撃で中山砦・君ヶ懐砦・姥ヶ懐砦・鳶ヶ巣砦・久間砦が撃ち破られました。

- ・復元文殊山砦 ➡ 新城市の作手地区には、多くの山城があります。武田氏と徳川氏の戦力の境界の接点の地であった為です。



【牛湫橋より見た長篠城址】

左寒狭川、右宇連川の合流地点中央が長篠城址

・長篠城は、寒狭川と宇連川が合流して豊川の流れになる、扇状の断崖絶壁の場所に築城された城で、天正3年の【長篠城の攻防戦】では、5月14日の夜、鳥居強右衛門と鈴木金七郎の2名が(同行説と別行動説有り)野牛曲輪の不浄口を抜け出し、梅雨末期の水かさの増した激流の豊川を、武田軍の仕掛けた【鳴子】をかいくぐり泳いで下り、岡崎城の徳川家康の元へ救援を告げる使者として走った。

・毎年5月5日に開催される【長篠のぼりまつり】には、地元のマラソン愛好グループの【強右衛門クラブ】が、岡崎城から、長篠城址までの65kmのウルトラマラソンに挑戦している。



鈴木金七郎



鳥居強右衛門



【牛湫橋から見た長篠城址のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ

牛湫橋➡

- ・牛湫橋は、昭和4年に吊り橋より今の永久橋に架替えられました。
- ・牛湫橋の、手前でバスを降りて、車に注意するよう誘導しながら【牛湫橋】の中央付近で止まり、長篠城址方面と下流を見学します。
- ・飯田線の線路が、長篠城址内を走っているのが見えます。
- ・武田軍が、鳴子を張って警戒した豊川の場所を確認します。
- ・鳥居強右衛門が、脱出した不浄口辺りを確認します。
- ・鳶ヶ巢山砦、中山砦方向は牛湫橋を渡った目の前です。



・豊川の夏の風物詞
鮎の友釣り

■新城51景の会写真



長篠・設楽原歴史探訪ファイナル

…… 戦いの勝敗を深掘りする



戦いの終章

【信長・家康連合軍は、なぜ勝てたか】

①長篠城の守りが固く落ちなかったこと。城兵の士気が高く兵糧も十分にあった。

(5月14日武田軍の猛攻で、瓢箪輪、食糧庫も奪われ絶体絶命のピンチに陥った。)

*城が、寒狭川と宇連川の合流点にあり、川面から25m程の断崖上の要害の地

②城から離れた、連吾川右岸に馬防柵を作り、大量の鉄炮で武田軍を待ち受けたこと。

*武田騎馬隊の機動力を削ぎ、鉄炮が有効に利用出来た。

(前日までの梅雨が明けた)



③長篠城の背後を突く、徳川軍の鳶ヶ巣山奇襲作戦が成功したこと。

*設楽原(歴史資料館の辺り)に進出した、武田軍の背後から鉄炮の音が聞こえ、退路を断たれた感じを武田軍に与えた。



*この作戦は、地元の地理に精通した、吉田城主(豊橋)酒井忠次が提案とされる。

④城を脱出した、鳥居強右衛門と鈴木金七郎の使者が、**【長篠城】**と**【設楽原】**の情報を伝えることが出来たこと。



(武士の鑑)

強右衛門磔刑の背旗→



辞世の句



武田勝頼公→



辞世の句



【武田勝頼軍は、なぜ敗れたのか?】

①大将武田勝頼が、相手大将と比べ(若い)経験が浅かったこと。

*信長42歳 家康34歳 VS 勝頼30歳 * (信長軍には秀吉38歳もいた)

②織田信長・徳川家康軍に比べ、鉄炮や火薬等の入手が困難であったこと。

*大坂の堺は、信長に抑えられていた *兵農分離の部隊組織が遅れていた

③名門武田家の跡目相続のしこりが残っていたこと。武田勝頼は、諏訪の人間

*武田信玄以来の家臣(宿将・親類衆)と、勝頼に近い家臣の間にズレが生じた

④父信玄でさえ攻略できなかった、高天神城を落とした自信が裏目に出たこと。

*足早(移動の速さ)の武田軍もこの時は十分に力を発揮できなかった

前半の長篠城の攻防戦の項目終了
少し休憩を取りましょう!

・休憩後は決戦の地:
設楽原へ移動します。

